

第283回 番組審議会

1. 日 時 令和元年 6月11日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F 「星雲東の間」
3. 委 員 委員総数 7名
出席委員数 7名 (欠席委員数 0名)

○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)

砂子田 智 (副委員長)

—以下50音順—

石田 征広

小崎 博子

菅原 正二

高橋 博昭

八木橋 伸之

○ 会社側出席者 (7名)

藤澤 利憲 (代表取締役社長)

小原 忍 (取締役副社長)

齋藤 秋水 (常務取締役)

藤原 銀司 (常務取締役)

工藤 浩 (取締役)

一戸 俊行 (報道制作局長)

井上 智晶 (報道制作局報道部主任)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議 題 『FNSドキュメンタリー大賞
幸せを呼ぶ音色～がんと闘うチンドンマン～』
平成31年 4月28日(日) 16:00～16:55放送

5. 議事概要

今回は、4月28日午後4時から放送した『FNSドキュメンタリー大賞 幸せを呼ぶ音色～がんと闘うチンドンマン～』を審議しました。議事の概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ報道制作局 一戸俊行局長からの説明

・「FNSドキュメンタリー大賞」は、系列各局の番組制作力の向上とノウハウの蓄積を目的として行われており、今回28回目を迎える。以前末期がんの方の番組を2回ほど制作したことがあり、今回正直「どうかな」と思った。しかし、映像を見て考えが変わった。岩手の小さな集落に生まれ、チンドンで地域を盛り上げ、仲間や家族に見守られて人生を終える。なんて幸せで素敵な人生なのだろうと、それが番組全体に出ればよいと思った。

●岩手めんこいテレビ報道部 井上智晶主任からの説明

・寺町一座の皆さんとの出会いは、『山・海・漬』という番組で、一座に弟子入りしてチンドンを体験するという企画だった。その後も連絡を取っていて、震災後は、寺町一座の皆さんがメインで開催した、チンドンの全国大会や復興支援の様子も取材させてもらった。

・昨年、チンドン太鼓の新沼健一さんががんにかかったと聞いて、お見舞いに行った。番組を制作するつもりはなかったが、新沼さんの「長野県の奈良井宿で皆と演奏したい」という夢を聞き、番組にしたいと思った。又、大病を患っても夢を持ち続ける情熱や、病気に負けない精神は、どこからくるのか、それを知りたいと思った。人生とは何か、多くの人にとってそのヒントが見つければとの思いで制作した。

●出席した委員からの意見

・良いドキュメンタリーだった。残った4人が葬送の列に向けて演奏した姿が印象に残って、やるせないと思った。良い響きだなと思いながら見た。

・アマチュアで、どうやって活動資金を捻出しているのか頭から離れなかった。新沼さんが、もともと太鼓をやっていて、そこからなぜチンドンに行ったのか、その筋道も分からなかった。初めて見る人にも分かるように、そういう説明をしてほしかった。

・番組を見て少なからず、ショックを受けた。自分には、子どもの頃から仲良しの、ああいう友達がいたのだろうか。仲良しでやっている連帯感が自分にはあったかなということが最後までつきまとった。いろいろな説明は、いらなかった。

・お葬式が通過する時に、残されたバンドマンが立って演奏した。まさしく「ニューオリンズジャズだ！」と思った。

・新沼健一さんは、ものすごくリズム感の良い人。非常に才能があったと思う。ちょっとびっくりした。相当上手い人だったと思う。

・終活を考える世代になり、お金を残せばいいのか、仲間だけでいいのか。非常に複雑な時代で、つくづく考えさせられる番組だった。

・人の生死を番組の進行に使うのは、どうかという面もあるが、この番組は成功していると思った。重いというよりは、見終わったあと充実感のある番組だった。

・家族とか仲間、夢とか希望というのが伝わり、都会にはない郷土愛をすごく感じた。

・こういう人たちがいるから地域が潤って、活性していくんだなと感じ、羨ましく思った。

・奈良井宿でチンドンをするという夢を実現するために、長時間車に乗るといふ行動を取ったことで、死期が早まったんじゃないかと思ったりもしたが、家

族や仲間はその辺りどう腹落ちしたのか。個人的には興味があった。

- ・しっかりとしたストーリーで、良い番組だった。

- ・何気に出てきた奥さんの律子さんが重要で、あの奥さんが納得してやったので、この番組はすっきり最後まで見られたのかなという印象をもった。

- ・親と重ねて見るのと、自分と重ねて見るのでは、これだけ見方が違うんだと気づかされた。

- ・井上智晶アナウンサーのナレーションは、非常に素敵だったが、大人の女性がナレーションをしていたら、違っていたのかなと思った。

- ・新沼さんと周りの人たちが、とても良いチームワークだなと思った。
今の地方創生、人・仕事・町づくりは、どちらかと言うと仕事を作って、若い人を呼び込むというものだが、人・町に力を入れて、こういうものを盛んにすることも今の仕事かなと思った。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※令和元年6月12日（水） 産経新聞 東北版

※令和元年6月22日（土）午前4時12分から4時15分まで「めんこいテレビ番審りレポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

次回は、令和元年7月9日(火)12時より3階「星雲東の間」にて開催予定です。